

展示会「日本発☆子どもの本、海を渡る」関連講演会

2010年3月6日（土）

国際子ども図書館3階ホール

司会 国際子ども図書館児童サービス課長 小林直子

14:00 開会

講演 『ひろしまのピカ』が海を渡ったとき
～日本の絵本の翻訳出版に携わって
講師 栗田明子氏（日本著作権輸出センター相談役）

16:00 閉会（予定）

講師紹介

商社、出版社勤務を経て、1972年に日本ユニエージェンシーに入社し、著作権エージェントとしてのキャリアを積む。国際共同出版と児童書を担当し、日本の図書館のプロモーションと同時に海外の図書館の紹介も行う。1981年3月に独立して（有）栗田・板東事務所を設立し、ケルンを本拠に本格的に日本の図書館の紹介・売り込みに専念。1984年に同社を発展的に解消し、「ナショナル・エージェンシー」を目指して現在の（株）日本著作権輸出センターを設立。創業時から同センターの代表を務め、2008年12月から現職。

著書 『アメリカの出版界』（共著）（出版同人 1974）
『オーディオ方式英文速記入門』（研究社出版 1976）
『ゆめの宝石箱』（国土社 1986）
『バリアを越えて』（共著）（岩崎書店 2000）
訳書 『郵便局員ねこ』（ほるぷ出版 1979）ほか多数

『ひろしまのピカ』が海を渡ったとき

～日本の絵本の翻訳出版に携わって

於 国際子ども図書館
2010年3月6日（土）

日本著作権輸出センター
創業者・相談役 栗田明子

I. 日本の絵本が海を渡るには

1) 絵本の世界へ

ボローニャ国際図書展に立ち寄った1975年（栗田にとっての絵本元年）

ボローニャ国際児童図書展とは？（関係者の交流の場であり、版權売買のための場所）
絵の展示会出展は、絵本画家のための登竜門

児童書分野で名のある海外編集者、関係者たちとの接触：ベッティーナ・ヒューリマン、
アン・ベネデュース、アン・ペロウスキー、ジュディー・テイラーなどなど

2) 日本の絵本を出展した1976年のボローニャ国際児童図書展

日本の絵本の特徴（右開き、縦書き、長いテキスト、白抜き文字など）

はじめての成約 『チロヌップのきつね』（高橋宏幸作・絵（金の星社刊））

3) 日本での絵本ブーム 特に海外からの版權「輸入」 原画展も丸善などで開催される

絵本の翻訳権「輸入」から学んだこと

4) 日本の絵本作家への高い評価

赤羽末吉、瀬川康男、安野光雅、米倉斉加年ら、日本の絵本作家がアンデルセン賞受賞、あるいは候補となり、ボローニャで受賞、日本の絵本作家への関心が高まる

日本の新しい、若い絵本作家や編集者たちがボローニャを訪れて、自分の目で原画や絵本を目にして刺激を受けはじめる

創作絵本を海外に紹介する点数が多くなり、徐々にではあるが＜両面通行＞となる。安野光雅、中谷千代子、岩村和朗、五味太郎、など日本で出版されれば、海外での出版先はほとんど決まる作家が出現。

日本の書店で海外から「輸入された」絵本が多すぎて、競合している実態に驚く

日本への認識は、どの程度か？イギリス（日本紹介）とオランダ（『はれ ときどきぶた』）の例

—— 休憩 ——

II. 絵本は世界の共通語

5) どのくらいの日本の絵本が海を渡ったか？

予想外の出来事：アジアの国々が著作権条約に入ったことでの広がり。
アジアへは出超、対欧米はほぼ両面通行？

6) どのようにして翻訳出版されるのか？

1981年独立を決意。本格的に日本の作品を海外に紹介したいと思うようになったため。

日本ユニージェンシーを退社、「ケルンを本拠に」が先にあり、会社組織にすべき、とのアドバイスを得て板東悠美子さんに相談、(有) 栗田・板東事務所を設立し、東京に板東、ケルンに栗田で出発。最初は絵本を中心にヨーロッパの出版社めぐり。図書展では得られない編集者たちの反応。

7) 売られる本と売りたい本（仲介者としてエージェントの役目）

図書展で並べて、スタンドを訪問した編集者が気に入った本（編集者の好みを知る）
表紙についても、国によって好み異なるなど（『いないいないばあ』安野光雅作・童話屋刊）

どうしても売りたいと思った本は積極的に動いて売り込む

『ひろしまのピカ』（丸木俊え・文）の例 アメリカでまず出版され、イギリス、ウェールズ、フランス、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、オーストリア（ドイツ語）は共同出版（シンガポールでの製作）。

その後スペイン、イタリア、ギリシャ、中国、フランス（2社目から再刊）ではフィルム
の複版やデータ提供で出版された。

8) 翻訳に対する配慮が大切であることを痛感・文化の違いをどう調整するか？

『ひろしまのピカ』イギリス版の問題

『くまたくんのたんじょうび』（渡辺茂男作・大友康男絵）アメリカ版の翻訳をめぐって
アメリカでは、黒人が消えたり『お星さまのいるところ』（市川里美作）、現れたり
（科学の実験シリーズ（大日本図書刊））

イギリス版では野球ではなく、サッカーになったこぶたくん『プータンなんになりたいの』
「やまいも」に対するドイツとフランスの編集者の反応の相違

9) 平和をテーマに企画した安野光雅発案による絵本『まるいちきゅうのまるいちにち』

世界の有名絵本作家による協力の賜物